

アセスメントから得た認知症 入居者と職員の変化

特別養護老人ホーム 萬松の里

ユニットリーダー 花島 啓

特別養護老人ホーム 萬松の里



- 平成16年5月 開所 新型ユニットケア 全室完全個室
- 特 養 部門 : 10人1ユニットで6ユニット 計60床
- 短期入所部門 : 10床内5床は居室にトイレを設備する
(短期入所利用者のみでユニット形成)

認知症入居者 HSさん (79)



- 大正15年 農家に7人兄弟の第3子として生まれる。
- 長く看護師として勤務。
- 肺結核で療養生活。
- 健康に不安があり薬に依存しがちになる。
- プライドが高く認知症と思われたくない。

帰宅願望 と 歩き廻り

- 昼夜を問わずソワソワして帰りたいがる。
- 他利用者の居室に入り込んでしまう。
- 出口を探しウロウロと歩き廻り他利用者に不審がられる。⇒内側から施錠してしまう。

収集癖 と 服薬拒否

- 荷物を思わぬ所に運び行方不明となる。
- 荷物トラブルが関係を悪化させる。
- 服薬に時間がかかり支援の空転化が進む。

脱衣 と 夜間放尿

- 半裸状態でリビングへ出て軽蔑される。
- 床・ゴミ箱放尿で夜勤者はイライラしてしまう。
- 繰り返される問題行動は支援を雑にする。

問題行動のアセスメント不足

- 帰宅願望 → 他利用者を刺激
- 歩き廻り → 他利用者の居室侵入
- 収集癖 → 荷物トラブル
- 服薬拒否 → 説得に時間を浪費
- 放尿 脱衣 → ユニット内の秩序崩壊

夜間放尿解決へ取り組み

情報収集

- 御自宅でも夜間放尿は日常茶飯事。
- 着ている服を水洗便所に流してしまう。

原因調査 ⇒ 仮説

- ① 自宅と違う間取りに混乱、トイレを発見できずあるいは認識できなく放尿。
- ② 現代の洋式便器を認識できなくなる。

和式ポータブルトイレ

①設置初回 ⇒ 成功！
完璧に便器に排尿する。



②二回目 ⇒ やや失敗
使用しているが尿は便器からこぼれている。



③三回目 ⇒ 失敗！
使用してなく床に放尿。

認知症有識者 講演会にて

問題行動は非言語的なサイン



ユニット内で再アセスメント実施



ニーズを見極めはアセスメント情報収集から

クリスマスケーキ作り



3月3日の雛ちらし寿司



たこ焼き作り



- 主婦として活躍していた頃の**自分を取り戻す**。
- **成功体験**が自信となり何事にも**意欲的**になってくる。

枝豆、とうもろこし茹で



- 積極的に作業参加し、表情も**活気**が出る。
- 他者をリードし指導的な立場で**活動の中心**。

主婦的作業で**自分を感じる**



- 主婦的作業で世帯の中心の頃を取り戻す。
- 世話をされるのではなく他者に対し御世話をすることで**自己実現**。

職歴的にアプローチ

- 看護師の頃を思い出す
- 夜間不眠時は巡視に参加してより看護師であることを感じる。
- メモは正しく取れていないが**気持ちは落ち着いている**。



介護福祉士の専門性は何か？



- 支援はあくまでも仕事
↓
しかし場当たりの支援は禁物
↓
介護職の専門性は何か？
↓
最善の支援を見付け出し実施
↓
入居者の**自己実現**を支援

まとめ

- アセスメントは高齢者福祉の基本
- アセスメントは形式的であってはならない。
- **情報収集⇒分析⇒対策立案⇒観察⇒評価**を根気強く繰り返すことで核心が見えてくる。
- アセスメントは認知症支援を『**楽に**』『**楽しく**』昇華出来ることの可能性を理解する。

ご清聴有難うございます。

